

たまがわ びと

多摩川流域の水と緑に深く関わっている方から、お話を伺うコーナーです。

第8回

小泉 茂さん (NPO法人多摩川干潟ネットワーク 理事長)

干潟・水辺の生物をもっと多くの市民に親しんでほしい



昨年6月にNPOとして大師河原防災ステーション・水防センターの一部を拠点として活動が始まりました。前身としての活動は2001年ごろに遊べる多摩川を取り戻したいと、リヤカーを出して2人でゴミ拾いを毎週日曜日に始めたのです。夏の台風でヨシハラに自然に帰らないゴミが沢山たまったのがきっかけでした。

その後「遊クラブ」としてPTAの有志も含め80名くらいの参加協力があった時代もありました。小学校の環境授業・総合授業が始まったところで、学校も関心を持ってくれました。



今は8～12人くらいで(7時～9時、8月は休み)続いています。大師付近のヨシハラは幅50m～100mで1.5kmも続きます。70ℓのごみ袋で1ヶ月100袋になったころもありますが、今は45ℓで年130袋くらいに減っています。対岸まで500mの大空間の景観と、ヨシハラ、干潟



の水辺の生物に魅せられて、多くの親子連れが増えてきましたが、もっと多くの市民が親しめるよう、活動の輪を広げたいと思います。行政との協働にも期待したいところです。

多摩川の輪

繋がる、広がる

調布水辺の楽校

2006年、中本賢さんの呼びかけに調布の有志が集まり、多摩川での「川遊びイベント」を開催しました。この時に多くの子どもたちと保護者が参加し、「水辺の楽校」への関心を集めました。そこで、翌年多摩川に面する小学校2校とPTA、おやじの会、環境市民団体、市環境政策課がメンバーとなり「調布水辺の楽校設立準備会」が発足しました。

その中で、2009年3月に国交省から正式な『水辺の楽校』として認可され、現在は多摩川流域7小学校の児童と保護者を対象に春＝ガサガサ/アユ救出作戦 夏＝川流れ 秋＝芋煮会 冬＝バードウォッチングなどの、親子で楽しめるイベント(安全講習なども含む)を行っています。



Vol.8

編集後記

梅雨明けがもうすぐか、警戒警報の出た台風も関東地方では被害が少なく何より、今年から開催時期を9月から8月初旬に変更した、エコ★カップいかだ下りは水量が気になる。少なくて困った昨年、多すぎても困る。夏休みの真っただ中、キャンプや、合宿、旅行、盆踊りと催事も重なる。今年は参加艇が減ってしまったが、内容は年々向上しているのではないかな。ブラッシュアップした水と流れのプログラム、子供のふる里冒険体験機会、もう来年への思いがふくらむ。夏だあ！暑さを乗り切ろう！



- ニヶ領せせらぎ館
- アクセス
JR南武線・小田急 登戸駅 徒歩10分
JR南武線 宿河原駅 徒歩15分
※駐車場はありませんので、車でのご来場はご遠慮願います。
 - 開園時間
午前10:00～午後4:00
6月～9月の土・日・祝日
午前10:00～午後5:00
 - 休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合はその翌日)